

本例会では、参加者が感謝の気持ちを自然に表現しやすい環境を作り出すために、複数の工夫を施した。これらの工夫がどのように機能し、実際に期待した効果を生むことができたのか、アンケート結果および当日のヒアリング内容をもとに以下の通り検証する。

① JC 活動の裏側をスクリーンショットや写真で共有

《実施の工夫》

LINE でのやり取り、会議中の様子、準備段階の動きなど、普段は外部に見えない裏側をスライドで紹介した。

《検証・効果》

- ・対内では 87.9%が「活動を理解していただけた」と回答し、視覚資料が理解促進に大きく寄与したことが示された。
- ・対外でも「普段見られない一面が伝わった」「努力の過程がよくわかった」という声が多く、JC 活動の意義や取り組みへの理解向上に繋がった。

《総評》

裏側を共有するアプローチは、JC 活動の価値を「見える化」する効果が極めて高い。一方で初参加者には情報量が多い場面もあり、補足説明を加えるなどの改善余地がある。

② 全員から感謝の言葉を収集し動画化

《実施の工夫》

会員全員が「ありがとう」を伝える動画を作成。例会冒頭に上映することで、会場に感謝の雰囲気を生み出した。

《検証・効果》

- ・対内アンケートで 97%が「感謝の気持ちをもって行動できた」と回答。
- ・対外でも「メンバーの想いが伝わった」が 100%であり、動画は感情の共有に大きな効果を発揮した。
- ・冒頭で気持ちが自然と高まり、その後の歓談や交流の質向上に繋がった。

《総評》

動画による感情喚起は非常に効果的で、本例会の雰囲気づくりの基盤となった手法であった。

③ 同伴者、お子様用の名札

《実施の工夫》

名前と関係性を記載した名札を用意し、メンバーが声をかけやすい環境をつくった。

《検証・効果》

- ・ 歓談での会話がスムーズになり、対外参加者からも「話しかけてもらいやすかった」という声が複数あった。
- ・ 関係性が一目でわかることで、初対面でも安心感のあるコミュニケーションが実現した。

《総評》

名札の導入は交流の質を高め、「感謝を直接伝える文化」を後押しする効果があった。

④ セレモニースの説明をし、対外参加者でも理解しやすく工夫

《実施の工夫》

セレモニースの意味を解説をした。

《検証・効果》

- ・ 初めて参加した方も青年会議所の独自文化を理解しやすくなった。
- ・ 対外理解の向上に寄与し、例会参加のハードルを下げる効果が確認できた。

《総評》

形式に偏りがちなセレモニースを「開かれたもの」にする工夫として非常に有効であった。

⑤ 託児スペースの設置

《実施の工夫》

小さな子ども連れでも参加しやすくするため、保育士・スタッフ合計5名を配置した託児ルームを用意した。

《検証・効果（課題中心）》

- ・ 実際の利用者は0名。理由として、
 - 「同室でないため子どもから目を離せない」
 - 「授乳室が無く不安」

「資格のある人でも、初めての環境に預けるのは抵抗がある」
などの意見が寄せられた。

- ・結果として、期待された効果を発揮できず、予算面でも負担が残る形となった。

《総評》

託児そのものより“安心して預けられる環境づくり”と「事前情報の伝達」が不足していたことが課題。

効果を最大化するためには、

同室内にキッズスペースを設置、授乳室の案内、保育士の紹介
など、より踏み込んだ工夫が必要だった。